

漁況予報 いわし

第105号

2001年 5～6 月漁期
(2001年5月 日発行)

＝ 概況 ＝

まいわし

3・4月のマイワシ漁況は、主要定置網及び中型まき網とも散発的な漁模様で終始しました。定置網では、漁場によっては中羽イワシ(2000年級群、体長16cm台)主体に1トン以上の漁獲のあった日がありましたが後が続かず、殆どの漁場が数kg/日の漁獲水準で推移しました。佐島地区の中型まき網も数日1トン前後の漁獲がありましたが、やはり中羽イワシ主体で大羽イワシは中羽イワシに若干混じる程度でした。

今後、産卵を終えた個体が索餌北上群として順次東京湾・相模湾にも来遊してくるでしょうが、中羽イワシは昨年以上に資源水準が高い一方で、大羽イワシは昨年以上に少ないと思われるので、全体として漁獲量は昨年以上に厳しくなるものと予測されます。

かたくちいわし

主要定置網におけるカタクチイワシ漁は、3・4月とも西湘地区を中心に昨年同期を上回った漁場がありましたが、全体としては低調に推移しました。

佐島地区のまき網も、定置網同様、まとまった漁獲がないまま推移しました。

現在、黒潮は離岸傾向にあります。今後接岸傾向になり沿岸水温が上昇してくれば、成魚資源水準は良好なことから、まとまった漁獲が期待できるでしょう。

しらす

3月11日に解禁したシラス漁ですが、解禁後しばらくは越冬カタクチシラス(全長35～45mm)が主体で漁獲量も伸びず、極めて散発的な漁模様で終始しました。3月末頃から春仔の加入が徐々に始まり、4月中旬には全域で漁が見られるようになりました。

漁獲水準は、相模湾東部地区で100～300kg/統/日、西寄りの地区で多い日には約1トン/統/日となっています。魚種組成はカタクチシラス主体にマシラスが2割程度混じっていて、魚体は中～大シラス主体となっています。

昨年は、3・4月漁期に比べて5・6月漁期はかなり不漁となりましたが、今年は5月が盛漁期となる、いわゆる平年型と予想され、春漁期全体(3～6月)としては昨年を上回るものと期待されます。

＝ 予報 ＝

まいわし

今漁期は、産卵を終え索餌北上群として来遊する大羽イワシ(3歳魚)及び中羽イワシ(2000年級群)が主体となります。

大羽イワシの資源水準が低いことから漁獲量の大幅な好転は期待できないでしょう。

今漁期の漁獲量は、約1,775トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網

かたくちいわし

今漁期は、大型成魚及び小型成魚が漁獲の主体となります。成魚の資源水準はここ数年減少傾向にあるものの、依然として高い水準を維持していますので、まとまった来遊が期待できます。

今漁期の漁獲量は、約350トンと予測されます。

しらす

今漁期は、4～5月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

昨年は、大型成魚による産卵量密度が高すぎて不漁となりましたが、今年はそのようなこともなく、5月中は安定した漁獲が見込めるでしょう。

今漁期の漁獲量は、約240トンと予測されます。

過去5年の5・6月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

